

教育

- アップルと教育について
- アップルだからできること
- 教育ソリューション
- モバイル学習
- 教育向け製品情報
- スクールサイトライセンス
- 教育者
- Macを使う理由
- Learning Interchange
- 学生
- Macを使う理由
- Macを好きになる、みんなの理由
- Student Gallery
- 学生プロフィール
- 両親につたえよう
- イベント
- Touch the Mac
- 教育事例
- 製品の購入



Podcastによる「いつ、どこでも」受けられる授業

同志社大学 神学部

Pages 1 2

同志社大学では2000年からストリーミングによるインターネット授業をスタートし、今年4月から神学部でPodcastを利用した授業を開始しました。これによって、学生が教室に集まって授業を聞くという今までの授業形態が、大きく変わる第一歩となりました。日本全国でも初の試みとなる「Podcast授業」について、詳しくお話を伺いました。

教室での授業という既存概念を、Podcastが解放

神学部・神学研究科教授の小原克博氏は、今年の4月から2つの講義をPodcastで行っています。一つは「建学の精神とキリスト教」で、創立者の新島襄の略歴や教育思想などについて学びます。もう一つは「戦争・正義・平和—宗教多元社会の中で」（宗教学6）と題し、現代世界における紛争、戦争、テロなどの問題を比較宗教学的な視点から考察していく授業です。

「そもそも私がインターネット授業を始めたのは、1000人も目の前の学生に対して教室で教えるということに対して、限界を感じたからなんです。それほど大きなスペースを毎回確保するのも大変ですし、1000人クラスになってくると授業を聞いてもらうだけでも大変なんです。これでは質の高い授業を提供することはできない、何か他の方法がないかと考えていたときに、まずはストリーミングによるインターネット授業をやってみることにしたんですね」（同志社大学 神学部・神学研究科教授 小原克博氏）

ところがストリーミング放送の場合、学生はブロードバンド回線に繋がったパソコンの前にはずっと座っていなければならない、という制約がありました。普段からiPodのヘビーユーザーだった小原氏は、CNNやBBCのニュースなどをiPodで見ているときに、「これを授業で使ったら、いつでもどこでも勉強できるのでは？」と直感したそうです。



「iPodの普及率は学内でもかなり高いですし、仮に持ってなくても大学のパソコンなどで授業を見ることができます。学生には私のPodcast授業を見た上で、年14回のレポートを提出してもらいますが、今までの授業に比べてより自由な環境で、じっくり勉強をしてもらうことが可能になりました。就職活動でなかなか学校に来られない学生たちにも、非常に好評ですよ」（小原氏）

今年は「Podcast授業元年」ということで、まだPodcastを理解していない学生や、他学部の教授たちに対しての啓蒙期間としても考えているそうです。神学部からスタートしたこの試みが、やがて大学全体に広がっていく可能性も十分感じているそうです。米国の有名大学の教材を無料で提供する「iTunes U」にも刺激されたという小原氏は、これからの大学は学内に対するコンテンツの提供だけでなく、中学・高校や社会に対しても授業の質そのものをアピールしていくべきだと語ります。

「社会に対して開かれた大学というものを実現するには、Podcastのような誰もがアクセスできるテクノロジーが有効だと思うんです。実際、今公開しているPodcastコンテンツも、卒業生から「見えていますよ」という声がたくさん届いたことに驚きました。こうなってくると、今度は高校生もいるんな大学の授業をPodcastで見た上で、大学を選ぶという可能性も十分出てきますよね。当然、大学側も授業の質や内容について今まで以上の努力と工夫を迫られますが、学びたいという意欲がある学生にとってはとても良いことじゃないでしょうか」（小原氏）

授業の編集は、1~2日で完成

Podcast授業について多くの人が気になるもう一つのポイントは、制作時間がどれくらいかかるのか、と制作方法ではないでしょうか。実際に小原氏の授業をPodcast用に制作している大学院生の



同志社大学 神学部

iPodとPodcastが授業を変える
歩きながら授業を体感する

同志社大学



新島襄が1875年に同志社英学校を設立したのを始まりとする。以来130余年、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」を教育理念とし、校祖が「同志社大学設立の旨意」で唱えた「良心を手腕に運用する人物の養成」を常に目指してきた。近年は時代の要請とともに、様々な改革を実践している。長く続いた6学部（神・文・法・経済・商・工）体制が長く続いていたが2004年以降は政策学部、社会学部、文化情報学部を開設し、今春には生命医科学部とスポーツ健康科学部を新設した。工学部を理工学部に変更し、来年設置予定の心理学部を含めると12学部となる。2013年を目処に、今出川校地（京都市内）は国際主義、リベラル・アーツ、京田辺校地（関西文化学術研究都市）は生命、情報、先端技術、人間をキーワードとした教育研究拠点に再編する。今後ますます「国際主義」を推し進め、世界的教育研究拠点を目指す。

- 同志社大学 Podcast
- 同志社大学 Podcast (iTunes)

導入目的

- 多くの学生に、より効果的かつ効率的な授業を提供する。
- Podcastによる新しい授業手法の実践により、今後の新しい授業形態の可能性を模索する。

導入結果

- 授業をiPodにダウンロードして、いつでもどこでも授業を受けられるようになった。
- わからない部分は何度も授業をiPodで見直せるため、より深い学習が可能になった。
- 就職活動中の学生など、なかなか授業に参加できない学生にとっても、空いた時間を使って柔軟なスタイルで勉強ができるようになった。

こちらの事例で紹介しているアップル製品の購入・導入のご相談はこちらから。あなたの学校に

横田氏に伺いました。

最適なシステムをご提案いたします。



「主にMac miniで編集を行っています。撮影に1時間、撮影素材の編集で1時間、その後小原教授のPowerPointのレジュメを取り込んだり、動画全体の編集をFinal Cut Studioで3時間程度行います。あとはエンコーディングとデータ書き出し、サーバへのアップに3時間といったところでしょうか。私は元々は動画編集の経験はありませんでしたが、今では早くも1日、最大でも2日もあれば1回の授業を編集できますよ」（横田氏）

その他の教育事例はこちらから。

“最小限の手間で、最大の結果を出すために、Appleの製品とソリューションは大きな力になってくれますね”と語る横田氏。今後はFinal Cut Studioのもっといけるような機能を駆使した映像を作ってみたいとのこと。

小原氏の授業では、屋外の映像とスタジオの映像を織り交ぜながら、なるべく見ている人が飽きないような工夫が凝らされています。ただ先生が同じ場所、同じアングルで話しているだけではつまらないので、TV番組感覚で見られるようなコンテンツ作りを心がけているそうです。こうした工夫の積み重ねが、Podcast授業をもっと面白いものにしていくのでしょう。今後、小原氏の授業が横田氏の手によって、どんな風に進化していくのが楽しみです。

Pages 1 2

教育

- アップルと教育について
- アップルだからできること
- 教育ソリューション
- モバイル学習
- 教育向け製品情報
- スクールサイトライセンス
- 教育者
- Macを使う理由
- Learning Interchange
- 学生
- Macを使う理由
- Macを好きになる、みんなの理由
- Student Gallery
- 学生プロフィール
- 両親につたえよう
- イベント
- Touch the Mac
- 教育事例
- 製品の購入



Podcastによる「いつ、どこでも」受けられる授業 同志社大学 神学部

Pages 1 2

キャンパスを歩きながら、授業を体感しています

実際に小原氏のPodcast授業を受けている、文学部国文学科4回生の小澤園子さんに授業の感想を伺ってみました。小澤さんは以前からiPodユーザーで、ロシア語の勉強のためにロシアのニュース番組をよく聞いているそうです。



「“建学の精神とキリスト教”という授業では、小原先生がキャンパスを歩きながら同志社大学の歴史を紹介しています。この授業を自分のiPodに入れて、実際に先生と同じルートで歩いてみることで、授業内容を体感できるのが良かったですね。建学の精神を、キャンパスのあちこちに実感できるようになりました」（国文学科 小澤さん）

一回に提出するレポートは、400字。小澤さんの場合、授業をPodcastで見た後にすぐレポートを書けば、14回のレポート提出もそれほど苦にはならないそうです。今後、この授業やiPodに期待することは何でしょうか？

「このPodcast授業が、他の授業でももっと広がっていけば面白いと思います。iPodでスケジュール管理ができるといいですね。レポート提出のめ切りをiPodで確認できたらいいなあ、と（笑）」（小澤さん）

学生の「知のコミュニケーション」を活性化したい

続いて、学校法人同志社理事長である野本真也氏に、今回の試みについて、また今後の教育についてのお考えを伺いました。実は野本氏は、Apple IIc時代からのMacユーザーで、デスクに愛用のMacBook AirやiPod Touchが置かれていました。それは単に新しいテクノロジーに興味があるからということだけでなく、今までのアップル製品に共通して流れている製品思想に対して共感しているからだそうです。

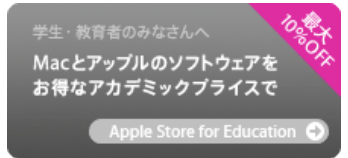
“高校生の大学選びにおいて、いろんな大学のPodcast授業を見た上で「同志社がいいな」と思ってくれるような時代が、予想以上に早く来ると思っています”

—同志社大学神学部・神学研究科 教授
小原克博氏

「これからの時代の教育には、“情報をどう扱うか、どう付き合っていくか”という視点が欠かせません。学生が学ばなければならない知識の量が以前に比べて飛躍的に増えているので、大学という限られた場所に縛られていては本当の学力は身につけられないんです。そこで役に立つのが、PodcastやiSightといったアップルのソリューションだと思います。つまり、大学という枠を飛び越えて、「いつ、どこでも、誰とでも」つながれるようなコミュニケーションの方法が必要だということです。今後は、マス向けの内容はPodcast授業を配信し、少人数のクラスではiSightを使った

授業を行うなどして、それぞれの条件に合わせた講義が実現できるといいですね」（学校法人同志社理事長 野本真也氏）

ドイツでは60年代からラジオで「第3プログラム」という大学の高品質な講義を提供する番組があり、学びたいという意欲がある人には誰でも学ぶことができる環境があったそうです。日本の大学でも公開授業は行われていますが、広く浅い知識を伝えるだけでなく、より専門的で深い知識を学べる授業も提供していくべきではないか、と野本氏は語ります。



同志社大学 神学部

iPodとPodcastが授業を変える
歩きながら授業を体感する

ソリューション

- iPod
- Podcast
- MacBook
- MacBook Air
- Final Cut Studio

導入目的

- 多くの学生に、より効果的かつ効率的な授業を提供する。
- Podcastによる新しい授業手法の実践により、今後の新しい授業形態の可能性を模索する。

導入結果

- 授業をiPodにダウンロードして、いつでもどこでも授業を受けられるようになった。
- わからない部分は何度も授業をiPodで見直せるため、より深い学習が可能になった。
- 就職活動中の学生など、なかなか授業に参加できない学生にとっても、空いた時間を使って柔軟なスタイルで勉強ができるようになった。

こちらの事例で紹介しているアップル製品の購入・導入のご相談はこちらから。あなたの学校に最適なシステムをご提案いたします。

その他の教育事例はこちら から。

今回の同志社大学の取り組みでは、「神学」と「Podcast」という組み合わせが非常に特徴的でユニークです。しかし、一見何の繋がりもなさそうに見える両者は、実は「ユビキタス」という言葉で繋がっているんですよ、と野本氏に教えていただきました。



「ユビキタス」という言葉は本来、ラテン語の宗教用語で『神はあまねく存在する』という意味なんです。意外にも、神学とPodcastのような最新テクノロジーは、その起源に共通項があるというわけですね。これは何を意味するかというと、人間にとって本質的なものは変わらないという真理ではないでしょうか。それが「コミュニケーション」であり、「教育」なのだと思います。人間のコミュニケーションは、言葉だけで行うわけではありません。感情や雰囲気、相手の表情など、いろんな要素が同時に織り混ざりながら成り立っています。そうした繊細で豊かなコミュニケーションを、21世紀のツールを使ってもっと楽しめるようになって欲しいですね」（野本氏）

同志社大学の新しい試みが、今後どのような結果と波紋をもたらしていくのかに注目しましょう。

Pages 1 2